『スラヴ文化研究』Vol.16 (2018) pp. 22-43

ソ連建築界における新たな段階：
第 5 回世界建築家連合（UIA）国際会議モスクワ開催に関する考察[1]

鈴木佑也

《要旨》
本稿は、モスクワでの世界建築家連合（以下 UIA）第 5 回国際会議（1958 年開催）を対象とし、この会議が当時のソ連建築界で有した意義を住居建築との関連から考察するものである。多くの先行研究でこの UIA 第 5 回国際会議は、当時の国際情勢と関連し、ソ連建築界が国際的潮流のモダニズム建築への同調という新たな流れを示すものと位置付けられている。だが、新たな建築潮流は戦後復興と関連してソ連政府が注力していた住居建築、その中でも建築材料、工法、設計方法で顕著に見られたものである。設計方法の規格化は、このモスクワでの UIA 国際会議でも取り上げられたテーマであった。ここから本稿では、第 2 次世界大戦前後からこの会議が開催されるまでの工法や設計方法の変遷をアーカイブ資料を用いて辿ることでその時期のソ連住居建築を概観し、この会議に関するソ連建築界の報告書を分析することで、このモスクワでの国際会議に対するソ連建築界の姿勢が明らかにされている。

《キーワード》
世界建築家連合、ソ連建築家同盟、ソ連建築界の対外交流、パネル工法住居

0. はじめに

モダニズム建築[2]を世界各国に広める目的で設立された有志の建築家団体、近代建築国際会議（以下 CIAM）による 1933 年のモスクワでの国際会議が立ち消えとなった 25 年後の 1958 年に、世界建築家連合（以下 UIA）による国際会議がモスクワで開催された。UIA は国際連合教育科学文化機関（以下 UNESCO）付属機関として 1948 年に設立された国際

[1] 本研究は日本学術振興会特別研究員奨励費（研究課題番号 16J09637：「ソ連全体主義建築における近代主義建築への眼差し：CIAM と UIA との交流を例に」）の助成を受けたものである。
[2] モダニズム建築とは、産業革命による工業化および都市化を背景にした 19 世紀末の社会で登場し 20 世紀半ばまで世界各国に伝搬した建築分野での造形表現である。それまでの建築様式を排し、機械のイメージから機能性をモデルとして方法論や造形を追究し、都市の労働者層や中産階級者のための住宅または集合住宅に当初は適用された。外見上の特徴としてヴォリューム、規則性、装飾忌避が挙げられ、各部分は建築物全体と結びついており、それぞれが合目的構造を有し、またそうしたものに対して審美性を見出したスタイルである。

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https:creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

的な建築家団体で、国際親善および交流のネットワーク形成を目的としていた。

ソ連建築史家のキャサリン・ズボヴィチは、1950 年代半ばのソ連建築界における新たな潮流と関連付けて、モスクワでの UIA 国際会議開催は、ソ連建築界による「当時の国際的な潮流であるモダニズム建築に歩調を合わせるアピールであった」としている[3]。現代建築史家のマイルス・グレンディニングは、いわゆる「東西冷戦」といった当時の国際情勢を背景に 1950−60 年代のこの国際会議の変遷を辿り、モスクワで開催された会議は「政治抜き」で準備を進めようとする UIA の方針によって、最終的には国際親善を前面に押し出す形となったとしている[4]。さらに、第 2 次世界大戦後の社会主義国家間の政治や外交を専門とする歴史家エリドール・メヒリは、社会主義国家間で形成された「社会主義グローバリゼーション」における交流事業という観点から、モダニズム建築を受容し新たな潮流へと舵を切ろうとするソ連建築界と「階級闘争」によって得られる社会主義建築のアピールを主張した東ドイツ建築界の UIA 国際会議に対する態度を扱っている。この会議における社会主義国家間の建築交流事業は、結果として「気の抜けた張り合い」、つまり歩調を合わせることができなかったと述べている[5]。以上の先行研究から 1958 年のモスクワにおける UIA 国際会議開催は、ソ連建築界におけるモダニズム建築の復権を内外に示す結果となっていたことがわかる。この会議自体はモダニズム建築を世界に伝播しようとした「CIAM のようにエリート的かつ教条的ではない」[6]ため、国際親善という目的の下で、モダニズム建築といったスタイルのみならず多様な建築活動が報告され、議論される可能性を有していたはずである。モスクワでこの国際会議が開催されたことは、ソ連建築界にとって、国際潮流となっていた建築スタイルに歩調を合わせることだけに限られていたのか。

この国際会議開催の時期と関連付けられるソ連建築界の「新たな潮流」はスタイルの刷新に限られたものではない。住宅史家のロバート・T・マカッチョンが指摘するように、設計手法や建設作業、予算配分の見直しといった建設事業全般にも新たな潮流は及んでいた[7]。第 2 次世界大戦後の復興事業と関連して、建築分野でソ連指導部が特に注力したの

---

[3] Katherine Zubovich, “To the New Shore: Soviet Architecture’s Journey from Classicism to Standardization,” *Berkeley Program in East European and Eurasian Studies Working Paper Series*, 2013, Summer, pp. 1-18.
[4] Miles Glendinning “Cold-War conciliation: international architectural congresses in the late 1950s and early 1960s,” *The Jouanal of Architecture*, Vol. 14, No. 2, 2009, pp. 197-214.
[5] Elidor Mehilli, “The Socialist Design: Urban Dilemmas in Postwar Europe and the Soviet Union,” *Kritika: Explorations in Russian and Eurasian History*, Vol. 13, No. 3, 2012, pp. 635-665.
[6] Pierre Vago, *L’UIA, 1948-1998* (Paris: Editions de l’Epure, 1998), p. 23.
[7] Robert McCutcheon, “The Role of Industrialised Building in Soviet Union Housing Policies,” *Habitat International*, Vol. 3, No. 4, May 1989, p. 50.

は住居建築や都市計画であり、第 5 回 UIA 国際会議でも扱われたテーマであった。ここから、この会議でソ連建築界が求めていたのは国際親善だけでなく、住居建築における成果報告やその分野に関する意見交換であったと考えられる。この点を本稿は明らかにすることを目的とし、次のような構成となる。

まず、この会議が開催される以前の UIA 設立に際してソ連建築界が取ったアプローチの経緯、UIA 国際会議運営で重要視された点を概観する。このことによって、後年開催されるモスクワでの UIA 国際会議でソ連建築界にとっての利点または価値を理解することが可能となる。UIA の設立目的とソ連建築界が加盟した理由を理解した上で、第 2 に UIA 設立時期からモスクワでの開催までのソ連建築界における住居建築の流れを把握する。第 2 次世界大戦以前からソ連建築界では戦後に導入される建設工法が試され、このことが特に取り入れられたのは住居建築で、住居建築に関しては UIA が設立した当初から掲げられていたテーマでもあった。第 2 次世界大戦前後から 1950 年代半ばあたりまでのソ連の住居建築を概観した後、第 3 に 1958 年にモスクワで開催された第 5 回 UIA 国際会議に関するソ連建築界の見解を論じていく。この会議はソ連共産党中央委員会のプロジェクトとして位置付けられていたため、会議終了後にその詳細およびソ連建築界への影響が報告されている。この報告書の分析から、第 5 回 UIA 国際会議がソ連建築界にとって単なる国際親善のためのものであったか、モダニズム建築を受容し肯定的に評価する場であったのか、もしくは全く別の方向性を提示する場であったのかということが明らかになる。

1. UIA へのソ連建築界の接近と参加

本項で扱うことになる UIA についてまず簡単に触れておこう。UIA は建築家および建築関係者による国際的な組織で、国際連合の下部組織として今も尚活動を続けている。UIA 創設に大きな役割を果たしたのは、第 2 次世界大戦直後の 1945 年にパリで創設された建築家会議国際委員会（前身は 1932 年設立の国際建築家協会）である。この委員会の代表を務めたのがフランスの建築家オーギュスト・ペレで、後に彼は UIA の名誉顧問となる。一方で実務を取り仕切る総書記にはハンガリー出身のフランス人ピエール・ヴァゴが就任し、彼は建築家でありながら、1930 年代半ばからフランスの建築雑誌『今日の建築（L'Architecture d'Aujourd'hui）』で編集者としてソ連建築界と交流を深め、ソ連建築界の国際会議への参加を促進するといった活動を行なっていた。1946 年 11 月にロンドンで建築家会議国際委員会の会合が持たれ、ペレに代わってイギリスの都市計画家パトリック・アーバンクロービーが代表を務め、フランス建築界が中心となっていた組織運営に他国の建築家が加わるようになる。その翌年の 1947 年 5 月にブリュッセルで建築家会議国際委

員会と 1867 年に創設された国際建築家常設委員会の 2 団体を合併して UIA を創設することが正式に決定され、1948 年 6 月にローザンヌで第 1 回の UIA 会議が開催されることになる。この組織は 23 カ国の建築家団体計 400 名の建築家が参加し、年に 1 度開催される組織の方向性を審議または決定する総会とその運営に携わる執行委員会から構成され、執行委員会は委員長と 4 名の副委員長、総書記、会計主任から成り、参加地域に偏りが出ないように選出される。この第 1 回会議でソ連からはニコライ・バラーノフ、アレクサンドル・ヴラーソフ、ヴャチェスラフ・シュクヴァリコフが参加し、同時に開催された総会でバラーノフは執行委員会の副委員長に選出されている。UIA の設立趣旨では「建築家間の交流拡大、相互意見交換の場の構築、戦災によって破壊された都市の復興、スラムの殲滅、インフラストラクチャーの整備、住居の規格化によって人々の生活の改善を図ること」[8] が提唱された。第 2 次世界大戦直後のヨーロッパで設立されたことを考えれば、戦災からの復興は急務であり、特に中欧や東欧、ソ連西部の被害は壊滅的であり、これらの地域に属する建築家たちのほとんどは復興作業に従事していた。ここから、時代背景として都市の復興が UIA 国際会議の中心的なテーマに据えられていたと考えることができる。しかしこの点は、後述するように、ソ連建築界側の強い要望によって UIA の設立趣旨に組み込まれることとなった。興味深いのは、住居建築の規格化といった具体的な方針が取り上げられている点だ。1928 年に設立された CIAM もモダニズム建築を伝播することを使命としていたが、CIAM に参加した多くの建築家はその実践対象を住居建築で試みていた[9]。また 1913 年に設立された国際住宅・都市計画連合（以下 IFHP）も、エドワード・ハワードが提唱した田園都市構想を基にした住環境改善が議題の中心となっていた。住居をテーマとした建築潮流は、大都市部での生活環境が社会や時代の要請に応じて変化を求められていたことのみに起因するのではない。1920 年代からドイツやオランダ、スウェーデンなどで見られる行政主導の住宅プログラムなどから、国家または行政レベルでモダニズム建築が広範囲に取り入れられ、建築家たちによる実践の場として最適であったこともその理由に挙げられよう。

こうしたかたちで UIA は設立されたが、この組織に対してソ連建築界はどのように関わっていくのであろうか。UIA 設立直前に話を戻して、ソ連建築界の動きを見ていこう。1946 年に発表された第 4 次 5 カ年計画では「戦災を被った地区の復興、産業および経済

---

[8] К 5 Конгрессу Международного Союза Архитекторов // Архитектура СССР. 1958. № 2. С. 55.
[9] CIAM 設立前年の 1927 年に開催されたヴァイセンホフ（ドイツ）のジートルング（集合住宅）展や CIAM 第 3 回会議のテーマ「最小住宅」などはその好例であろう。

を戦前の水準まで回復させ、のちにその水準をかなりの割合で上回ること」[10]が主要課題として設定された。ソ連建築界でも 1947 年の時点で国家予算の投資額のうち約 1/3 が建設事業に注がれ、そのうちの多くは、住宅建設に割り当てられていることがソ連建築家同盟理事会第 12 回総会において報告されている [11]。建設事業への注力は当然のことながら戦後復興としての建設事業であって、上記したような CIAM や IFHP のような建築実践としての住居建築とは異なっているように見える。この報告では、建設復興事業への大掛かりな投資にもかかわらず、建設の速度が投資額でカバーすべき建設面積に追いついていないことを問題としている。こうした問題の原因は、報告者のカロ・アラビャンによれば、5 カ年計画で謳われている建設事業の産業化や最新の建設技術の導入といった建設現場での新しい環境に適応することを多くの建築家達が怠っていることにある。確かに、1930 年代末ごろからソ連建築において建築材料の規格化が進められ、一定の部品や材料を工場で組み立てて建設現場へ搬送することで、着工期間短縮の試みがなされていた [12]。しかし、アラビャンが取り上げる第 2 次世界大戦後のソ連建築界ではこうしたことがなおざりとなり、建設で必要な建築材料を規定の量よりも余計に利用する「建築的な無駄（《архитектурные излишества》）」によってソ連建築家は住宅建設が妨げられていると非難している [13]。そのため、住宅建設の工場方式（《заводские методы домостроения》）を取り入れるべきとして、5 カ年計画で規定された投資額に見合った建設ノルマ達成を促している [14]。第 2 次世界大戦直後のソ連建築界においても住居建築が戦後復興の関連事業だけでなく、工場方式という新たな建築手法を実践する場でもあったことがわかる。このように、ソ連建築界が取るべき方針と住居建築を中心とした建築交流を掲げる UIA の方針は、ある程度合致していた。このアラビャン報告がなされた 1947 年の時点で、ソ連建築界は UIA の前身となる建築家会議国際委員会への加盟理由を次のように説明している：

> 現在組織されつつある国際建築家同盟（UIA の母体を指す：著者註）は、かなり広範な国際的な組織となり得る。この組織を通じて、ソ連建築によって培われた都市再建に関する格別な経験を広く知らしめること、同様に有益な資料や情報を得ることができ

---

[10] *И.В. Сталин* Сочинения. Т. 16. М., 1997. С. 15.
[11] *К. Алабян* Творческие задачи архитектуры в пятилетнем плане восстановления и развития народного хозяйства // Архитектура СССР. 1947. № 16. С. 3.
[12] この代表的な例は 1937 年頃から建設作業が始まった大型建築プロジェクト・ソヴィエト宮殿（建設作業は 1941 年に中断される）で、この建築物に使用される鉄骨部材は細かく分類され、それぞれに名称をつけて規格化した上で生産されていた。
[13] *Алабян* Творческие задачи архитектуры. С. 3.
[14] Там же.

るということを考慮すれば、ソ連建築家同盟がこの組織に加入すること、そしてこの組織において積極的な役割を果たすべきことは理に適っている。[15]

こうしたことから 1947 年 5 月にソ連建築界は UIA への加盟を表明し、同年 5 月 21 日付の中央委員会政治局の決定によって加盟が認められている[16]。この後、UIA の実務を担っていたヴァゴとソ連建築界側の窓口を務めることとなったアラビャン[17]との間で書簡による意見交換、ヴァゴから UIA 設立準備に関する会合への参加依頼が幾度となくなされている。正式な設立を兼ねた UIA 第 1 回会議開催に至るまでのこの 2 人の書簡において、UIA の規約に関するやり取りがなされている。UIA 設立以前の 1947 年 5 月にブリュッセルで開かれた会合において UIA の母体が創設されたことは既に述べたが、このことと関連して UIA の規約も審議されていた。ソ連建築界側は参加表明の後、ソ連建築家同盟の代表としてアラビャンとバラーノフがこのブリュッセル会合に出席している[18]。この会合が行われている時期とその会合後と 2 度にわたり、ヴァゴから確認として会議の事後報告を受けている。その報告の中で、会合で審議された規約の下案に対する意見が求められ[19]、のちに UIA 執行委員会となる中央委員会の会合への参加要請が再度なされている[20]。こうした要請は、ソ連建築界がこの組織の単なる参加国ではなく、既に組織の中核を成していたことを示している。規約に関する意見の返答に際して、アラビャンはブリュッセルの会合で自らが提案した点が抜けていることを指摘しながら、この組織が「民主主義的な性質を有する統一体」であり、「戦災によって破壊された都市の復興と再建のための協力を目的とする」ということを明記するようはたらきかけている[21]。このアラビャンのはたらきかけに対してヴァゴは異を唱えることなく、アラビャンが提案した点を規約に反映することを約束し、さらにはこの組織創設の際に用いられる公式言語をフランス語以外にもロシア語と英語の 3 カ国語と決定したことを伝え、UIA 設立直前にパリで開催予定の会合（1948 年 1 月開催）への参加をソ連側に求めている[22]。このことを受けてアラビャンは全連邦対外文化協会（以下 VOKS）理事長ヴラジーミル・ケメノフに宛てて、この会合へ

---

[15] РГАЛИ (Российский Государственный Архив Литературы и Искусства), Ф. 674. Оп. 2, Д. 213, Л. 20 об.
[16] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 2, Д. 213, Л. 150.; РГАСПИ, Ф. 17. Оп. 3, Д. 1065, П. 88, Л. 19.
[17] 1945 年から全連邦対外文化協会（以下 VOKS）の建築セクション代表を務めていたため、当時の建築分野における対外交流は彼が公の窓口となっていた。
[18] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 2, Д. 213, Л. 81.
[19] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 2, Д. 213, Л. 31.
[20] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 2, Д. 213, Л. 34.
[21] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 2, Д. 213, Л. 39-40, 47.
[22] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 2, Д. 213, Л. 43.

参加するための出張許可を次のように求めている：

> ソ連建築家同盟の国際建築家同盟（UIA の母体を指す：著者註）加入に関することがソ連閣僚会議特別決議で肯定的に認められていること（1947 年 5 月 21 日付中央委員会政治局決議によって、この組織への参加が認められたことを指す：著者註）を念頭に置いて、パリで 1 月に行われる（国際建築家同盟の：著者註）組織委員会へソ連建築家同盟代表者が出張することに関する問題を然るべく指導機関においてはっきりしていただきたく。[23]

こうした伺いを立てているのは、当時のソ連文芸分野全般で猛威を奮っていたいわゆるジダーノフ批判への対処と考えられ、政府上層部による確証を楯に会合への参加を認めてもらおうという態度がうかがえる[24]。しかし UIA 第 1 回会議のための組織委員会会合への参加は、ジダーノフ批判による党指導部方針を遵守しようとする VOKS 上層部から認められなかった。こうした状況にもかかわらず、アラビャンが書簡でヴァゴに提示した項目（UIA が「民主主義的な性質を有する統一体」であるということ、「戦災によって破壊された都市の復興と再建のための協力を目的とする」ということ）を規約へ追加することが 1948 年 1 月に行われたパリの会合で認められ、さらにソ連側が提示していた UIA 公式言語をフランス語と英語以外にもロシア語を追加することが認められ、規約にも明記することが約束されたと報告されている[25]。また第 1 回 UIA 会議で扱われるテーマに「建築家と建設の産業化」が含まれていた。これは、1947 年のソ連建築家同盟理事会総会でアラビャンが報告したソ連建築界で「なおざりになっている」と指摘された点である。この報告

---

[23] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 2, Д. 213, Л. 81.

[24] ジダーノフ批判はソ連共産党中央委員会書記を務めたアンドレイ・ジダーノフが主導した社会主義リアリズム芸術全般に対する綱紀粛正である。このテーゼは 1946 年 8 月 14 日付全連邦共産党中央委員会による「雑誌『ズヴェズダ』と『レニングラード』に関する」決議においてミハイル・ゾーシチェンコとアンナ・アフマートヴァの作品に対して行われた非難に端を発し、他の文芸分野にも波及した。建築分野においては 1920 年代に構成主義建築を自らの設計に取り入れた建築家やモダニズム建築をかつて評価した建築家および建築批評家、さらに対外交流に積極的な人物が「アメリカによって率いられた帝国主義もしくはコスモポリタニズムに侵されている」（Разоблачить носителей буржуазного космополитизма и эстетства в архитектурной науке и критике // Архитектура и строительство. 1949. № 2. С. 10.）として建築雑誌上で糾弾されることとなる。アラビャンは註 17 で指摘したようにソ連建築界の対外窓口を務めており、本文で後述するようにアメリカ建築界との交流を推進していたことから糾弾対象になる可能性があった。一方でアラビャンが伺いを立てたケメノフは当時ジダーノフと親しい間柄であり、ジダーノフ批判を VOKS 内で推進する人物であった。ケメノフの VOKS での活動は *С. А. Фофанов* Гринберг vs. Кеменов. Иррелевантность двух культур // Искусствознание. 2016. № 4. С. 170-173 を参照。

[25] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 2, Д. 213, Л. 151.

を受けて、1948 年 6 月 22 日の中央委員会政治局会合で第 1 回 UIA 会議参加のためソ連建築家同盟からバラーノフ、シュクヴァリコフ、ヴラーソフらの派遣が許可され[26]、ソ連建築界代表団が第 1 回 UIA 会議に出席することになるのである。

以上のことからアラビャンを対外窓口としたソ連建築界は、UIA 創設初期段階から関わりを持っており、その組織を形成するための委員会の参加国として発言権を有していたことがわかる。またそうした状況を利用する形で、ソ連建築界側が問題としていた戦災復興とそこから導かれる住居建築の規格化および産業化が UIA での主要課題として取り上げられることになり、ソ連建築界側にとって「有益な資料や情報を得る」ことが可能となったのである。

2. 第 2 次世界大戦前後から 1950 年代半ばまでのソ連住宅建設事情

前章で取り上げた UIA 加盟目的のなかで、取得すべき「有益な資料や情報」としてソ連建築界が掲げたのは、戦災からの建設復興事情に関連する建築と住居建築の産業化であることが明らかとなった。1958 年にモスクワで開催される第 5 回 UIA 会議におけるテーマのひとつ「建設における技術上の問題と産業化（《технические проблемы и индустриализация строительства》）」は、ソ連建築界が UIA 加盟当初取得しようとしていた情報及び資料の対象である。このことから、UIA 加盟以降からモスクワでの会議開催まで、ソ連建築界では建設の産業化というテーマが依然として現実的な問題であったということがわかる。ここでは UIA 加盟時期から UIA 会議モスクワ開催準備までのソ連建築界における住居建設の流れを見ていくことにしよう。

UIA 加盟の時期に、ソ連建築家同盟理事会総会で行われたアラビャン報告で取り上げられた住居の規格化は、この頃に突如として現れたものではない。すでに 1930 年代からソ連建築界で取り上げられていた問題であった。その発端は都市部の急激な人口増加に伴う住居不足解消がまず挙げられよう。1920 年から 1940 年のソ連の人口推移を辿ると、都市部での人口がこの 20 年間で 2 倍近く増加している[27]。こうした急激な人口増加への対策として住宅建設が急ピッチに進められるが、インフラ整備の不十分さ、劣悪な住居の改善

---

[26] РГАСПИ, Ф. 17. Оп. 3, Д. 1071, П. 84, Л. 21. アラビャンは第 1 回 UIA 会議直前にソ連建築アカデミー総裁に就任することになり、その職務の関係上第 1 回会議へ出席できず、ヴァゴから推薦された UIA 副議長職就任を断わり、代わりにバラーノフを推薦している（РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 2, Д. 313, Л. 42-42 об.）。

[27] Gregory D. Andrusz, *Housing and Urban Development in the USSR* (New York: State University of New York Press, 1984), p. 120.

を求める通達が 1934 年のソ連人民委員会議決議によってなされている[28]。この決議では住宅の高さ（階数）、居住人数に応じた部屋の数、部屋の天井の高さ、壁の厚さなどが具体的に指示され、電気や水道といった設備の設置を義務付けており、一定の住居タイプが念頭に置かれていることがわかる。この 5 年後の 1939 年 5 月には「規格化設計に関する」決議が同じく人民委員会議で採択されている。この決議が採択された背景には、「大量生産による住宅建設の規格化設計がされていないことが住宅建設の産業化発展の妨げとなっており、そのことが一連の無駄（副次的で物々しい空間、合理的でない構成手法）を推奨し、住宅建設の高騰化を招いている」[29]状況があったからだ。この決議では建築アカデミーと都市や工業団地の設計を専門とする組織、ゴルストロイプロエクトによって作成された幾つかの住居タイプが提示されてはいる。だがソ連南部、モスクワやレニングラードといった大都市の目抜き通り及び河岸沿いの住居には適用されず、これらの地域の住居タイプは別途競技設計を行なうとしている。こうした規格化された住居タイプが「建設の産業化と建設方法の加速化を導入することで、性質向上と建設期間の短縮に決定的な役割を果た」し、「装飾の無駄を徹底的に排除することで」、「住居建築がかなり改善される」としている。この決議の 2 ヶ月後には幾つかの修正が加えられた決議が出されている。だが、ここでも「相当な理由のない建築的な無駄（高い手摺、ペディメント、必要以上に大きい庇、高いアーチ、ロッジア（開廊））による設計を認めない」[30]として簡素な住宅設計が目指されている。こうした装飾を省いた簡素な住宅は、1932 年以降のソ連建築界における建築様式論争、つまり歴史的な建築様式を設計や実際の建築物へいかに応用するかという潮流[31]からやや外れるかたちとなっている。そのため 1939 年の規格化設計に関する人民委員会決議は、当時竣工した大型建築プロジェクトであるニューヨーク万博のソ連パヴィリオンや全連邦農業博覧会、当時建設が進められていたソヴィエト宮殿などに比べると、建築雑誌や新聞などでの紙面の扱いが少ない。だが、規格化や工場方式実用化に関す

---

[28] Решения партии и правительства по хозяйственным вопросам 1917-1967 г. Т. 1. М., 1967. С. 471-473.

[29] Постановление СНК СССР «О типовых проектах жилищного строительства: против архитектурных излишеств» от 23 мая 1939 г. // Собрание постановлений и распоряжений правительства СССР. 1939. № 33. С. 232.

[30] Постановление СНК СССР «О типовых проектах жилищного строительства: отменить постановление от 23 мая 1939 “как неправильно ориентирующее на строительство жилых домов с узким корпусом” » от 21 июля 1939 г. // Собрание постановлений и распоряжений правительства СССР. 1939. № 45. С. 349.

[31] 過去の建築様式を自らの設計へ取り入れる手法を巡って、1933 年刊行の『ソ連の建築』誌において初めて公で議論された（Творческая дискуссия Союза Советских Архитекторов // Архитектура СССР. 1933. № 3-4. С. 12-15.）。これ以降『ソ連の建築』誌が中心となってソ連建築に適した歴史的建築様式の模索や過去の建築遺産の評価が頻繁に行われるようになる。

る研究や実験は着実に成果を上げていたようである。

1942 年に建築批評家であり VOKS の建築部門秘書及び副代表を勤めていたダヴィッド・アルキンがアメリカの建築家ハーベイ・ウィレット・コルベット[32]へ宛てたソ連建築界の現状報告書にある「ソ連における住居建築の工場方式発展の途」という項目では、被覆骨組構造（каркасно-обшивные конструкции）による建物の設計とファイバーボード（древесно-волокнистые плиты）の活用が、建設現場で応用されることになると伝えられている[33]。さらに小型パネルを用いた建築部材を生産ラインに乗せ、建築物を設計する方式が進められていることやキッチンや衛生設備なども工場で製造し、現場で組み立てる方法にも言及されており、そうした方法が「住宅建設の工場方式を発展させる上で効果的」[34]と述べられている。コルベット宛の報告書では、そのほかに都市計画、建築家の育成に関するソ連建築界の状況が伝えられている。だが、住居建築に関して項目を設けているのはソ連建築界がこの分野において注力していることを示すだけでなく、アメリカ側からそれらに関する具体的な情報の提供を求めるためであったと考えられる。コルベットはこの 2 年後の 1944 年にアメリカ-ソヴィエト友好国民評議会（National Council of American-Soviet Friendship、以下 NCASF）の建築委員会議長を務めることとなり、アルキンによるソ連建築界の現状報告に対する返答（宛先は VOKS の建築部門代表を務めたアラビャン）を行なっている。コルベットが就任した「この建設委員会は建築を職にするアメリカ会員とソ連の建築家との間で技術的な情報を交換する目的のため設立され」、「都市計画、住居建築、建物のデザイン、構造、工場方式、建築材料、そして設備といった面でアメリカの最新情報をソ連の建築家と技術者に提供する立場にある」[35]として情報提供の意

---

[32] ハーベイ・ウィレット・コルベットはメットライフ北館やブッシュ・タワーといったニューヨークの摩天楼を設計し、ロックフェラーセンターの設計にも関与した建築家である。1939 年のニューヨーク万博では諮問委員会議長を務め、この万博に国別パヴィリオンを出展したソ連側の代表かつパヴィリオン設計者であったボリス・イオファンやアラビャンとパヴィリオン建設に関して幾度となく書簡を交わしている。

[33] ГАРФ, Ф. 5283. Оп. 14, Ед. хр. 203, Л. 94. 被覆骨組構造とはボードやパネルを組み合わせ壁や床を構成する手法である。建築材料のファイバーボード（繊維板）は吸音及び断熱に優れており、壁や床などの吸音材や断熱材として現在でも用いられている。また仕上げが整っていることから化粧板としても利用されている。

[34] ГАРФ, Ф. 5283. Оп. 14, Ед. хр. 203, Л. 96.

[35] ГАРФ, Ф. 5283. Оп. 14, Ед. хр. 203, Л. 103. コルベットはこの書簡で、アメリカ側はこの見返りとして、ソ連側から雑誌や新聞、会議などで発表された建築関連の論文や報告書、様々な建築プロジェクトまたは建築物の設計書、写真、技術情報などの提供を求めており、ソ連の建築家や設計者の活動をより詳しく知りたいと伝えている（ГАРФ, Ф. 5283. Оп. 14, Ед. хр. 203, Л. 103-104.）。とはいえ、ソ連側への一方的とも言える情報及び技術供与からうかがえるアメリカ側の「友好的」態度の背景には、当時戦火に晒されていたソ連に対する同情と考えられる。このことに一役買ったのが、1936 年から 1938 年まで駐ソ大使を務めたジョセフ・デーヴィスである。1943 年 6 月にニューヨー

志を伝えている。こうしたことを受けてソ連建築界では、アメリカでの住宅建設、特にパネルなどを用いた工場生産方式や建築部材の規格化に関する調査や分析が進められ、自国の状況との比較、そこから導かれる従来の方式の改善策が報告されている[36]。同年に催された建築家同盟理事会では、戦後の建設復興事業が議題の中心となり、住居建築が取り上げられ、その中で注力すべき対象は 2−3 階建の低層階住居または 4−5 階建の住居とされている。この建設復興事業、特に「住宅建設で工場方式を導入すれば、それまでの建設方法と比較して使用する木材を 1/3−1/5 に削減でき、建物の重量も少なくとも 1/5 まで軽減でき、それに応じて建築材料の輸送量も削減でき、建物にかかるコストを減らすことができる」[37]としている。ここではその工場方式を建築材料（断熱材、ロックウール）の生産に適応するとして、そうした材料を用いた建築現場や建物の構造などを建築家たちは知る必要があるとする。さらに、建築部材の製造及び組み立てをより簡潔にして、パネルを利用した建設方法を推奨する[38]。同年の建築雑誌『ソ連の建築』では、こうした点を実際に反映して建設された住宅が掲載されているのは興味深い（図 1）。この住宅では、石膏ボードによって壁や床そして天井を組み立てる被覆骨組構造が取り入れられ、利用される建築部材を工場で生産し、建設現場で組み立てることによって、労働力、建築材料や部材の運搬費用といった面を削減でき、「経済性が歴然としている」として 1945 年からの本格的な導入を急いでいることが伝えられている[39]。こうしたことから、住居建築の規格化は第 2 次

クのアイカーンスタジアムで行われた政治集会において、彼はドイツとの戦争で荒廃したソ連への救援及び援助を訴え、アメリカとソ連の友好関係構築の必要性を唱えている（この演説内容は “Davis Stresses Need For Trust in Soviet,” *Daily News New York*, June 28, 1943, p. 183 を参照）。この政治集会は約 13,000 人が参加し、そのうちの一人であった挿絵画家のアルヴェナ・セカールは、この集会で「ソ連のナチスに対する壮絶な抵抗に対して、アメリカ国民全員が負うべき不変の恩義が強調されていた」ため、ドイツとの戦争によってソ連が負った「重荷が取り払われることを願う」と VOKS のイギリス・アメリカセクションの長を勤めていたリディヤ・キスロヴァに感想を伝えている（ГАРФ, Ф. 5283. Оп. 14, Ед. хр. 203, Л. 13）。さらに、アメリカ建築家協会（American Institute of Architects）南カリフォルニア支部からソ連の建築家全員に対して戦災で荒廃した戦後復興に向けた激励文が送られている（ГАРФ, Ф. 5283. Оп. 14, Ед. хр. 203, Л. 131）ことからも、ソ連建築界に同情が寄せられていたことがわかる。そのことがソ連への支援及び援助への希求となって、アメリカ側の友好的態度が形成されたと言えよう。

[36] この年の 7 月に開催されたソ連建築アカデミー会合で、建設技術研究所所長（当時）の G.F. クズネツォフはアメリカとソ連の低層階建築物を比較した報告を行い、アメリカにおける住宅建設のコスト安、低層階住居に用いられている建築材料の生産性の高さを例示し、ソ連の建設産業も見習うべきと述べている（ГАРФ, Ф. 5283. Оп. 21, Ед. хр. 31, Л. 1-22 об.）。一方で、住居建築全般に関して建築家のニコライ・ヴィリンキンはイギリスとアメリカ、特にアメリカの建設水準の高さを見習い、住宅の各タイプにおける標準型を学ぶべきだとしている（ГАРФ, Ф. 5283. Оп. 21, Ед. хр. 30, Л. 79-82.）。

[37] ГАРФ, Ф. 5283. Оп. 21, Ед. хр. 23, Л. 69.

[38] ГАРФ, Ф. 5283. Оп. 21, Ед. хр. 23, Л. 70.

[39] *Н. Шеломов* Сборные жилые дома // Архитектура СССР. 1944. № 6. С. 27-28.

大戦後の復興事業以前に問題となっており、この規格化が建築材料や部材生産の産業化（工場方式）を導くだけでなく、建築物の装飾となるようないわゆる「建築的な無駄」の削減（によるコストダウン）にも向けられていたことがわかる。

1945 年に入ると戦後復興事業という形ではあるが、住居建築の規格化およびそれに伴う工場方式は本格化する。1944 年の建築家同盟理事会総会で推奨された工場方式による小型住宅建設がモスクワ郊外やソ連各地で進められ、建築史家リチャード・アンダーソンが指摘するように、小型住宅は設計の規格化及び工場方式をこの時期にある程度確立し、大量生産体制に入った[40]。一方こうした住居タイプの適用が除外された大都市部における 4−5 階以上の中層建築物またはそれ以上の高層建築物でも、工場方式が登場し始めている。1947 年にモスクワ中心部の環状に位置するサドヴォ・クドゥリンスキー通りと中心部の西側に位置するモジャイスク街道沿いに建設された 8 階から 11 階建ての建物は、外見上周囲の建物とそれほど違いはない。だが、「工場で製造された建築部材を用いた迅速な建設方法」として『建築と建設』誌で紹介されている。ここで説明されている「迅速な建設方法」とは「それほど高くない塀が建設現場を囲い、その向こう側で階ごとに完成された個々の建物が伸びる」かたちで建設する、つまり一定の高さの部屋もしくは空間の個別ユニットを積み上げていく手法である（図 2）。そこで用いられる工場で生産されたパネルやブロックといった建築部材は、「従来の手作業による漆喰よりも丁寧な形で仕上げられていた」として工場生産で懸念されていた建築部材の質に関する問題も特にないことが強調されている。こうした「住宅建設において組立工法（сборная конструкция）や工場で製造される部材が幅広く用いられることは、住宅建設の作業を大規模なプログラムとして実現するための必要前提条件であり」、「革新的な建築家による創造的な活動を活性化させる」と述べられている[41]。

1950 年 5 月 9 日付ソ連閣僚会議において「建設費用引き下げに関する」決議が採択され[42]、工場での建築部材の生産と現場での組立工法は、首都モスクワの中心部に建設される大型建築物にも導入されるようになる。同年の『建築と建設』誌では、建設費引き下げに貢献するものとして、既に確立された規格化設計や工場での部材生産、組立工法が挙げられ、「建物の全費用のうち 26%まで占める装飾部分（うち 16%までが外装と浮彫）」を「かなり削減することができる」としている[43]。このような提案を行っているのは、この

---

[40] Richard Anderson, “USA/USSR: Architecture and War,” *Grey Room*, 2009, Vol. 34, pp. 92-93.
[41] Новые жилые дома Москвы // Архитектуры и строительство Москвы. 1947. № 4. С. 7.
[42] Постановлением Совета Министров СССР от 9 мая 1950 года № 1911 «О снижении стоимости строительства»
[43] *А. Г. Мордвинов* Архитектура многоэтажных домов // Архитектуры и строительство Москвы. 1950.

年からソ連建築アカデミー総裁に就任したアルカージー・モルドゥヴィノフである。建設工法や建設の産業化、さらには設計の規格化がある程度定着しつつある建設状況において、それに順応した建築物が登場していることを彼は説明し、「ソ連住居建築の次なる発展段階は高層建築物の設計である」として、当時首都中心部で既に建設された高層建築群のうち、蜂起広場とコテリニチェスカヤ河岸通りの高層建築物を取り上げている。このふたつはモスクワの建築アンサンブルにおいて、その巨大さ故の記念碑性（монументальность）によってソ連建築が目指すべき方向性を踏まえつつ「外観をかたどるロッジア、張り出し窓、バルコニーといった住宅の特徴」が備わっており、「巨大な建築物の塑像性」を考慮したものと評価されている。さらにモルドゥヴィノフは、「どこか懐古主義的なものとは異なり、ロシアの伝統建築を創造的に改めたもの」で「教訓的」とこのふたつの高層建築物を評価することで、今後都市部で建設が期待される高層建築物（8−14 階建）やそれに準ずる中層階（5−7 階建）建築物外観の範を見出している。さらに、中層階建物の基本的な特徴を「壁がんや壁の張り出し、前庭、建物規模としての段状構成、建物シルエットによる高度な表現性、（都市計画上求められている）垂直構造」とする[44]。そのため 1930 年代半ばよりソ連建築界の主流であった「古典建築遺産への着目（обращение к классическому архитектурному наследию）」[45]を踏襲しながらも、ファサードの壁面や窓、柱または軒先などの装飾もしくは浮彫を抑えた外観が求められるようになった。建設作業のみならず、こうした意匠を反映させた設計の加速化を進めるべく、1951 年 4 月 6 日付の「設計機関の強化ならびに小規模設計事務所の解散」に関するソ連閣僚会議決議によって設計関連機関の再編が行われた。この決議前後の時期に、モスクワゲンプラ設計科学研究所（現モスクワゲンプラン研究所）や特別建築設計事務所（現類型学および試験設計モスクワ設計科学研究所）、モスクワ市ソヴィエト設計課に幹線道路設計事務所などが設立される。これらの設計事務所または機関が設立された背景には、建築物単体の設計を加速化させることに加え、対象とする建築物を含む地区および都市全体を射程に入れた区画整理または地区整備の一環として、いわば設計者側の意識再編を促す意図があったと言える。こうした設計事務所や機関が「高層建築物の規格化した新しい各ブロック[46]の作成と工場における大量生産用のプレハブ構造の作成」に従事し、設計改善と設計期間短縮を図り、加速化を目

№ 10. С. 4.

[44] Там же, С. 6.

[45] Там же, С. 5.

[46] ここで用いられている「ブロック」とは建物室内を構成する個別空間（секция）または部屋のような建物の最小単位空間を指しており、本文で登場した建築材料の部品として用いられるブロックとは異なる点を了承されたい。

指すと 1950 年から首都モスクワの主任建築家に就任したヴラーソフは説明する[47]。ここでは住居の各ブロック設計から、都市部で増加する高層建築物そのものの設計を規格化することが求められている。1952 年 10 月に開かれたソ連共産党第 19 回大会で「建設期間の削減と建設作業の質向上を確保する」指令が通達され、それに応える形で大型パネルおよびブロックを用いた住居建築の進捗が「ゴルストロイプロエクト」の主任技師ボゴモロフによって報告される。この報告では、当時建設が進められていた中心部の高層建築物型住宅をいくつか例にとり、建物の外観および内装だけでなく建物を構成する壁面、階段、骨組みで用いられている部材の数および重量が算出されている。だが、「規格化されたものではなく、これまでに推薦され何度も繰り返され設計されたもの」として、この時点でもなお規格化住宅設計が確立されていないことを認めている[48]。こうした試行錯誤の結果、1953 年 7 月号『建築と建設』誌では 10 年前と比べてかなりの規模で建設費用の削減に成功し、それは建築部材及び構造部分の工場での生産によるところが大きいと報告されている[49]。しかし「設計者や建築家の多くはこうした経済性を嫌い、設計における無駄を許している」として、その原因は「高価な建築材料の使用、規格化されていない構造部分や建築物の部位を数多く用いることを設計者は建設労働者に仕向けている」ためであった[50]。ここでは、建築物の意匠を考案する段階で「無駄」を生じさせない、つまり規格化された建築材料や部材（主にコンクリートブロックやパネル）と親和性の高い意匠が求められているのである。『建築と建設』誌の同号における別の記事で「無駄」の具体例として、屋根の軒先部分の処理と装飾が挙げられており、これらを個別のものとしてではなく壁用のパネルやコンクリートブロックに組み込むことができるような意匠、または軒先の装飾を簡素化することが奨励されている[51]。1954 年には建築部材の 75%以上が鉄筋コンクリートによるものとなり、建築物の各部分（天井、床面、壁面、階段など）に分けたブロックやパネルの生産体制が整い、特にスラグコンクリートから製造されたパネルが大量生産され、その翌年には要構造パネル（каркасный панель）工法（骨組みの柱や梁にパネルを被せる被膜工法または構造部分にパネルをはめ込む工法）による設計と構造不要パネル（бескаркасный панель）工法（パネル自体が建築物の構造躯体となる工法）が確立され

---

[47] *А. Власов* Очередные задачи московских архитекторов // Архитектуры и строительство Москвы. 1952. № 1. С. 9.
[48] *В. Богомолов* Жилой многоэтажный дом каркасно-панельной конструкции // Архитектуры и строительство Москвы. 1953. № 5. С. 24-26.
[49] Повседневно бороться за повышение качества и снижение стоимости строительства! // Архитектуры и строительство Москвы. 1953. № 7. С. 1.
[50] Там же.
[51] *А. Земский* Против излишеств в проектах // Архитектуры и строительство Москвы. 1953. № 7. С. 26-27.

る（図 3)。また同年にはソ連の建築家およびエンジニアがフランス北部の都市エヴルーで当時建設中であったパネル工法による住宅建設を視察し[52]、1956 年の第 2 回ソ連建築家同盟総会理事会ではパネル型住居規格化設計の競技設計が行われたと報告されている[53]。こうしたことから、パネル工法によって大量生産型住宅を建設する生産的基盤、それに合わせた設計方法、さらには現場での建設作業方法が 1956 年の時点で産業化に向けて整い始めていた。だが、この工法による住宅がソ連各都市で一斉に建設され始めるまでには至っていなかった。第 5 回 UIA 会議は、そうした新たな住宅建設の産業化に踏み切ろうとするソ連住宅建設の転換期に開催されたのである。

3. 第 5 回 UIA 国際会議とソ連建築界におけるその影響

UIA の第 5 回会議開催がモスクワで決定したのは、1955 年 7 月 11 日から 16 日にかけてハーグでの第 4 回会議と同時に開催された UIA 総会においてである。このモスクワ開催は、1954 年 5 月のアテネで開催された UIA 執行委員会会合でこの委員会のメンバーであったモルドゥヴィノフから提案された[54]。ハーグにおける総会での正式決定以前の 1954 年 8 月に、UIA ソ連セクションとなっていたソ連建築家同盟は、会議開催に関する日程及びそれに関連した予算の見積もりをソ連共産党中央委員会に提出し、同年 12 月にはソ連建築家同盟理事会書記長を務めていたセルゲイ・チェルヌィシェフが再び共産党中央委員会に会議日程の予定とそれに関する新たな予算概要を提出している[55]。その翌年の 1955 年 1 月に、1957 年の開催予定とした第 5 回 UIA 国際会議モスクワ開催に関してヴァゴからチェルヌィシェフに予め伝えられ[56]、第 4 回のハーグでの総会でモスクワ開催が提案されるかたちで正式に開催決定となった。1956 年 2 月には第 5 回 UIA 国際会議準備のための事務局が設立され、UIA 加盟の各国セクションにモスクワでの開催概要が通達されている[57]。しかし同年にソ連が軍事介入を行なったハンガリーでの動乱による国際情勢から、当初予定していた 1957 年 7 月までに開催は難しく、1958 年に開催を延期する旨が 1957 年 1 月の UIA 執行委員会会合で通達されている[58]。この延期によって再びソ連閣僚会議で開催に関する審議が行われ、1957 年 12 月 3 日付の決議によって 1958 年 7 月の開催が

---

52 Бескаркасный панельный дом // Архитектуры и строительство Москвы. 1955. № 11. С. 39-41.
53 На Ⅱ пленум Правления Союза архитекторов СССР // Архитектура СССР. 1956. № 9. С. 46.
54 РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 3, Д. 1298, Л. 33 об.
55 РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 3, Д. 1331, Л. 189-192, 197-201.
56 РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 3, Д. 1331, Л. 188.
57 РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 3, Д. 1331, Л. 102-105.
58 РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 3, Д. 1403, Л. 18.

正式に承認され[59]、1958 年 7 月 21 日から 26 日にかけてモスクワで第 5 回 UIA 国際会議が開催される運びとなった。この会議では執行委員のヴァゴの要望[60]によって、UIA 幹部とソ連の指導者ニキータ・フルシチョフとの会談が実現し、この会談は国際建築潮流にソ連側が歩調を合わせた「ソ連建築の変化を象徴するもの」[61]となった。

この会議でのテーマは「建設と再建 1945−1957」であり、参加国の各都市における設計と建設に焦点が絞られている。1.「プロジェクト：機能的及び建築芸術的側面」、2.「都市建設に関連した新たな問題」、3.「戦災都市の復興と既存都市の再建」の 3 部門に分けたアンケートを予め各国セクションに送付し、その回答をまとめたものを組織委員会が資料（カタログ）として出版している。アンケートが各国セクションに配布される際に「1 の部門に主な関心が割かれる」[62]として、対象となる都市の設計コンセプトや基本的な情報が求められた。実際に出版されたカタログでは、この部門に関する情報に多くの紙面が割かれたため、都市計画に重点が置かれていたことがわかる。一方で会議当日では参加国の意見交換として、1.「プロジェクト：機能的及び建築芸術的側面」、2.「プロジェクトの実現：(a）法的、経済的及び社会的側面、(b）技術上の問題と建設の産業化」という部門に分けて報告が行われている[63]。また会期中には、モスクワ再建に関する資料、第 4 回 UIA 会議で扱われたテーマ「住居 1945−1955」に関連した資料、さらに UIA 側が事前に企画した建築系学生向け競技設計の受賞作品、そして同時期にソ連で開催された建築競技設計ソヴィエト宮殿の入賞作品、レーニン記念碑の入賞作品が展示されている。国外からの参加者に対して開催都市モスクワのみならず、レニングラードやキエフといった都市へのエクスカーションも企画され、会議自体は一週間であったが、それに関連する行事はおよそ 1 ヶ月ほど続けられた。

ではこの会議がソ連の住居建築に対してどのような影響を与えたのであろうか。第 5 回 UIA 国際会議終了後、この会議の議長を務めたアブラシーモフがソ連共産党中央委員会に提出した報告書を基に分析してみよう。この報告書は会議の詳細を報告したものとその会議を通して見えてきたソ連建築界の現状を報告したものとふたつあり、ここではこの会議

---

59 РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 8, Д. 21, Л. 1.
60 РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 8, Д. 21, Л. 10.
61 Glendinning, *Cold-War conciliation*, p. 200.
62 РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 3, Д. 1331, Л. 103.
63 1 ではコーネリアス・ファン・エーステレン（オランダ）、アーサー・リング（イギリス）、梁思成（中国）、ヘンリー・チャーチル（アメリカ）、ラライン・セルジオ・ガルシア・モレノ（チリ）、シクヴァリコフ、2 の a ではリューベン・トネフ（ブルガリア）、ルドルフ・ヒレブレヒト（東ドイツ）、2 の b ではアラビャン、ジャン=ルイ・ファイエトン（フランス）、アーネスト・カンプ（アメリカ）が報告を行った（РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 8, Д. 25, Л. 62-63.）。

がソ連建築界に与えた影響を分析するため、後者のみを扱うこととする。このソ連建築界の現状報告は「建築の創作方針」、「大量生産的建設の発展」、「建築家同盟の交流」の 3 つに別れ、それぞれの説明が行われている。

すでに見てきたように住居建築において、建築物にかかる費用を抑えることを目標として「建築的無駄の排除」が推奨され、その中で建築的装飾を抑える方針が整えられていた。これは、「建築の創作方針」の中でアブラシーモフがそれまでのソ連建築界の潮流であった、時代の要請から離れた「懐古主義（歴史主義建築の偏重）、折衷主義、度を超えたモニュメンタリズム」[64]を誤りと断罪する点と共通している。一方でその非難対象と対極にある「西欧諸国の建築に対して肯定とも否定とも取れない批評的ではない高すぎる評価」がなされているとする。この「西欧諸国の建築」とは、UIA 幹部会メンバーとの会談で、資本主義諸国の建築で主流となっていた「ル・コルビュジェが創り上げた箱」[65]とフルシチョフが揶揄したモダニズム建築を指しているのは明らかである。これを避けるため、ソ連を含めた社会主義社会で活動する建築家は、「建築物が生産力向上のための直接的な経済的意義を有している、あるいは建築物が消費価値そのものであると認識すること」が創作の基本であるとする。その上で、社会的な要求に応じた「経済性、新技術、機能的および美学的手法の相関性」を備えた建築を作り上げなければならないと説いている[66]。だが、こうした問題は「建築という現象自体が複雑であるため、解決するのは困難」とし、具体的な解決策の言及を避けている。こうした形で建築の創作方針を表明するのは、経済性を重視する態度がそれまでソ連建築界で培われてきた歴史主義建築を基にした建築潮流と必ずしも相反しないという態度の表れであり、翻って新たなスタイルが模索されている段階にあることを示している。その経済性を重視する態度の根幹をなすのは「大量生産的建設」であった。

当時のソ連住居建築事情で既に見てきたように、大量生産的建設という手法は、単なる生産方法のみならず、住居不足解消という「住民の生活環境向上の中でその真価が発揮され」、そこから「審美性が生じるべきもの」として建築における重要なファクターと位置付けられていた。これは建築材料の生産から建設といった建設事業全体を整備するにとどまらず、その原理となる設計をも建設事業に組み込んで体系化しようとする表れである。ここから、建設事業体系の一部を成す「産業化した設計（индустриальное проектирование）」が生じ、既にこの時までに確立されつつあった規格化設計との関係が大量生産的建設にお

---

[64] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 8, Д. 25, Л. 34.
[65] Mehilli, *The Socialist Design*, p. 664
[66] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 8, Д. 25, Л. 34-35.

いて重要なものとなる。というのも、規格化設計は一定の枠組みに当てはめて行われるものであり、産業化された設計は生産工程に組み入れられた設計であるため、その工程にのせることによって「個々の設計では解決できない量を保証し得る」からである。ここでは設計作業が何かしらのスタイルを生み出す芸術的手法ではなく、作業過程の一部としてみなされている。そのため「設計に関わる業者や人物の様々な環境や技術的な可能性を考慮し、建設作業の機械化の段階、建築材料の利用、気候などの自然環境を理解する必要がある」[67]。こうした手順によって建設工程における無駄が省かれ、建築物のタイプやモデルを確立し、建設条件や環境に応じてそれらを選択するという手法を取り入れることで、設計作業時間を短縮し、流れ作業化が確立され、大量生産的な建設が可能となるとしている。こうした流れ作業を支えるものとして、かつてソ連の建築家が避けていた「経済性」が挙げられている。この「経済性」は資本主義社会におけるものとは異なり、「空間規模や建物構造の選択に影響を与える理念的原則である」。何故ならば、コストといった制約と考えられるものを引き出すものではなく、「簡潔な芸術的手法やその慎ましい利用、最大限の合目的性」といった肯定的なものを引き出し、新たな設計手法や構成を生み出す要因となるからである[68]。この点はもちろん、ソ連建築界の中で試行錯誤を経て導き出された点でもあるが、UIA の参加者達による「外部からの批評」が後押ししたことも否めない。会議においてソ連の報告者が自国の建築事情を報告した際に、フランスの建築家達からモスクワのいくつかの地区で行われている建設に「無駄」があると指摘されている。その無駄とは「モニュメンタリティ、祝祭性、懐古主義、建設の産業化および規格化設計の結果として解釈された建築物の単一性」[69]である。「モニュメンタリティ、祝祭性、懐古主義」といった点は当時ソ連建築界でも批難対象となっていた。だが、それらに代わるものとして推奨された産業化および規格化による建設から生み出された建築物も、ソ連側が忌避しようとした単一的なものとして国外の建築家から見なされ、改善の余地を残す状態であることが明るみにされている。確かに、彼らの指摘は地区および都市といった全体から見た場合、つまりこの会議のテーマに沿った場合、正当な指摘ではある。しかし、ソ連側は「建設規模、その複合性、建設の産業化や規格化の度合い、都市計画の可能性および大量生産的建設からの印象は弱い」[70]と会議で指摘されたことに対する感想を記している。それまで培われてきた建設工程や建設体系から生み出された建築物、そしてそれらが組み合わさ

---

[67] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 8, Д. 25, Л. 37.
[68] Там же.
[69] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 8, Д. 25, Л. 65.
[70] Там же.

った住居地区という評価への期待がこの感想から読み取れよう。国外建築家からの批評をソ連建築界における方向性や展望に活用するため、アブラシーモフは、建築家同盟の交流を社会主義圏のみならず、資本主義国家の建築家たちに求め、共通の課題解決に向けて代表団の交流だけでなく、協力体制を設けることの重要性を説いている。この共通の課題とは、大量生産的建設、都市計画設計や建築の創作的方向性である。そのようなテーマを一堂に会して審議できる場が UIA のような国際会議であり、彼によれば「緊密な協力や経験を共有することで、より経済的かつ良質な建築活動を導き、経済活動の発展に寄与する」[71]のである。この点は、会議で採択されたいくつかの結論のうちのひとつに、ソ連建築界が推し進めていた「都市計画における建設の産業化および大量生産的建設の導入」[72]が反映されたと報告し、参加者から指摘されたソ連住居建築の「モニュメンタリティ、祝祭性、懐古主義」と「建築物の単一性」は今後のソ連建築における改善点として「注意に値する」[73]とする姿勢に現れている。

4. まとめ

1958 年にモスクワで開催された第 5 回 UIA 国際会議は、様々な地域から建築家が集い意見交換の場を提供し、国際親善を果たすものであった。一方で見てきたように、設立当初からこの国際機関に対してソ連建築界は「有益な資料や情報を得る」という観点から関わりを持っており、その目的をこの第 5 回 UIA 国際会議でも果たしたということが明らかとなった。第 5 回 UIA 国際会議におけるソ連建築界側にとっての「有益な資料や情報」とは、この国際機関において設立当初その目標として掲げられ、奇しくもこの第 5 回目会議でも取り上げられた「建設の産業化」であった。確かに、このモスクワで開催された会議の主題は都市計画にあった。だが、会議後の報告書から、都市計画や地区再編を形成する個々の建築物やその建設手法にソ連建築界側は関心の比重を置いていたことがわかる。この点は、ハーグでの第 4 回 UIA 国際会議終了後にモスクワ開催が正式に決定された際、組織委員長に就任したアブラシーモフが語った意気込みに見出せる。

> あらゆる国の建築家や建設に従事する者たちの創造的な結びつきをさらに深化させることが[…]絶え間ない完全性、建設方法の産業化と合理化、完全に新しくかつ現代的な建築を模索し、創り出すことを志向する協力活動の促進に寄与することは[…]疑い

[71] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 8, Д. 25, Л. 40.
[72] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 8, Д. 25, Л. 77.
[73] РГАЛИ, Ф. 674. Оп. 8, Д. 25, Л. 78.

もない。[74]

彼がこのように発言した時点で、「建設と再建」といった都市計画を中心とした第 5 回 UIA 会議の審議内容は、すでに決定していたはずである。にもかかわらず、彼の関心は建設の産業化および合理化に向いていたのである。この点は、経済性を重視していた当時のソ連建築界が、先行研究で指摘されるようなモダニズム建築に同調していたということを示しているわけではない。むしろ「建築的な無駄」を省きながらも、モダニズム建築が陥る傾向にあった単調性を回避しようとしてきたのは、既に見てきた通りである。しかし、その途上にあるソ連の住居建築は、ソ連建築界が避けてきた単一性に特徴付けられるものとモスクワでの UIA 国際会議で批判されるに至った。会議終了後の報告書でこうした批判を受け止め、さらなる研鑽を積むことが表明されたのは、UIA 会議で掲げられたテーマを住居建築へ活かそうとする姿勢がソ連建築界にあったからである。

こうしたことから、モスクワでの第 5 回 UIA 国際会議はソ連建築界にとって単なる国際親善という役割以上に、ソ連の住居建築における方向性を確認するためのものであり、それを強固にするための方法論や技術を得るための場として機能したと言えるであろう。

図 1：パネルを用いた小型住宅の例（«Архитектура СССР» 1944. №6. C. 28 より抜粋）

[74] *П. Абросимов* Четвертый Конгресс Международного Союза Архитекторов // Архитектура СССР. 1955. № 10. С. 35.

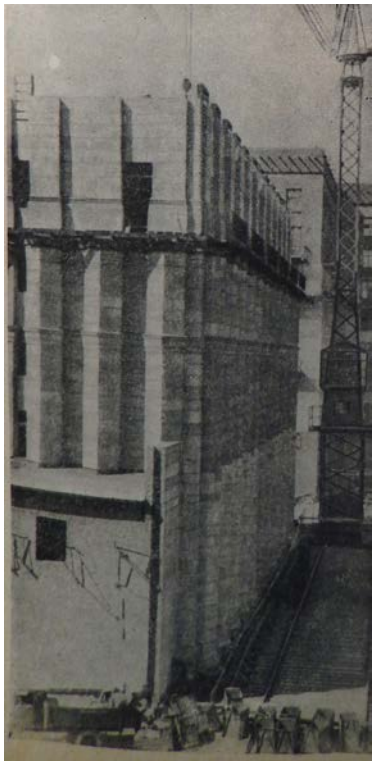

図 2：個別ユニットを積み上げて建築物を建設する手法
（«Архитектура и строительство» 1947. № 4. С. 7より抜粋）

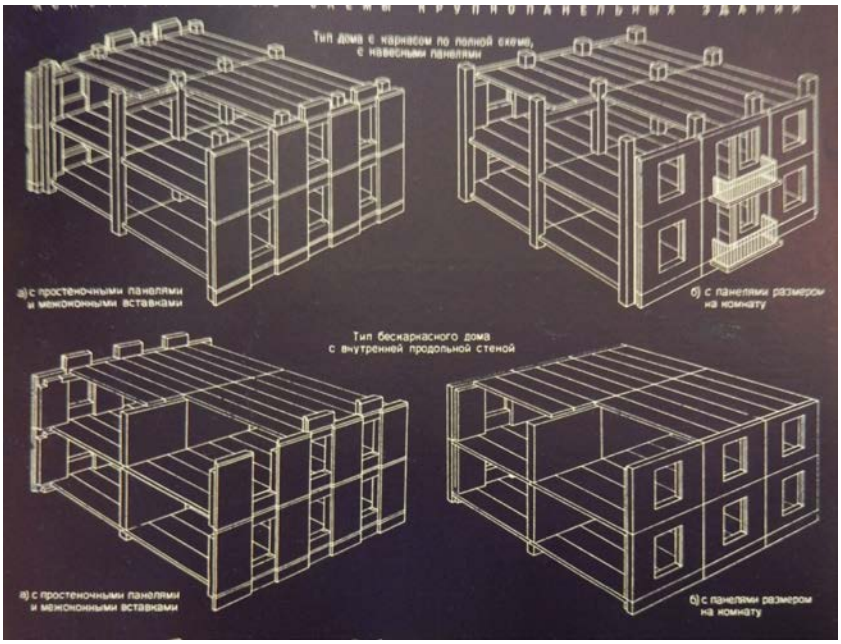

図3：要構造パネル（上ふたつ）と構造不要パネル（下ふたつ）による建築物の構成
（«Архитектура и строительство» 1955. № 5. С. 13より抜粋）

Towards a new stage in the Soviet architectural world: the 5th International Conference of the International Union of Architects (UIA) in Moscow

Yuya Suzuki

In this paper, we aim to introduce the significance of the 5th International Conference of the International Union of Architects (UIA) in Moscow (1958) to the Soviet architectural world, in connection with the residential architecture of that period. The 5th UIA Conference in Moscow has been thoroughly investigated as an expression of Soviet architecture's interest in modern architecture, which dominated international architectural trends, and as a new Soviet architectural trend However, new trends appeared in the field of residential architecture, which the Soviet government channelled great efforts into after the Second World War. In particular, we identify new trends in the development and use of architectural materials, as well as innovations in construction, design, and planning. The standardisation of design and planning was chosen as one of the topics of the 5th UIA Conference. Thus, first, we present an overview of housing constructions in Soviet architecture from before the Second World War up to the conference in Moscow. After describing the background, this paper discusses the report on the 5th Conference that the Soviet architects submitted to the Central Committee of the Communist Party. By analysing this material, we are able to show how the Soviet architectural world approached the 5th UIA Conference in Moscow.

key words: International Union of Architects, Union of Soviet Architects, Cultural Exchange of Soviet Architects, Construction of Panel-method for Housing